

中泊町が青森ねぶた祭に参加！

中高生もメバルねぶたも！

8月2日(木)から8月7日(火)まで6日間にわたって開催された青森ねぶた祭。ねぶたの題材に中泊町をとりあげた青森菱友会から、中泊町民もぜひ跳人(はねと)として参加して欲しいと申し入れがあり、最終審査日にあたる8月5日(日)に、中里高校生をはじめとした町民約120人が参加しました。

青森菱友会のねぶたの題材は「岩木川 龍王と武田定清」で、中泊町の歴史上の人物が選ばれました。運行は、菱友会運行責任者と町長を先頭に、兵庫議長、横野副町長、米塚教育長、大瀬中里高校校長や菱友会役員が、その後ろには中里高校生徒が掲げるメバルねぶた6体が続きました。また、青森菱友会のねぶたが3つある放送席の前を通るたびに、「中泊町の旧武田村の名前の由来となったとされる武田定清」と紹介され、PRの効果も絶大でした。

中里高校3年の安田愛梨さんは「青森市のねぶた祭ははじめて。ねぶたの迫力や観客の多さが印象的だった。中里高校ねぶたの制作で、ねぶたに対する関心が高くなっていったこともあって、青森市のねぶたに中高全体で参加できたことは、思い出に残る。なかどまりまつりも盛り上げたい」と手ごたえを感じていました。



菱友会役員と歩く濱館町長



新町で跳ねる様子

ねむのき保育園(青森市)
中泊町特産であるメバルのお面をつけてくれました。

海上運行の様子

一番高く提灯を掲げているのが濱館町長

8月5日(日)の運行後には各賞受賞団体が決まりました。青森菱友会は、ねぶた制作を主体として囃子や跳人など総合的に優れた団体に贈られる最高賞「ねぶた大賞」を受賞、また青森菱友会のねぶたを制作した竹浪比呂央さんには、最も優れた製作者である「最優秀製作者賞」が贈られました。

最終日の7日(火)の海上運行は、受賞6団体がむつ湾に繰り出し、青森菱友会はトリを務めました。海上運行にはメバネブ計4体も乗船しました。ねぶた祭りは、中里高校生徒が立体造形を学べたばかりではなく、町の歴史を通じたPRにも大きな効果がありました。

